

【下越】在来作物を生かした地域活性化を目指す公開シンポジウムが、新潟市南区で開かれた。にいがた在来作物研究会が主催し、生産者や関係機関ら40人が出席。講演とパネルディスカッションで在来作物の生かし方を検討した。

### 新潟市で公開シンポ

同研究会は発足7年目。他県の事例を学ぼうと、江戸東京野菜研究会の大竹道茂代表を講師に招いた。大竹代表は、JA東京中央会在職時から江戸東京野菜の復活に取り組む、現在52品目が認定されている。亀戸ダイコンや品川カ

## 在来作物で地域興し 東京の取り組み共有



在来作物についての取り組みを語る4人の生産者（右列）  
（新潟市南区で）

づ、寺島ナスなど、都内50カ所のゆかりの地に説明板を設置。地元商店街の関心呼び、地域の祭りや小学校での食育活動など地域興しにつながった事例を紹介した。

パネルディスカッションでは、県内4人の生産者がナス「上越丸えんぴつ」「笹神なす」、新潟田市在来サトイモ「笑み里つばさ」など、在来作物に関する取り組みを報告。地域活性化に向けて意見を交わした。

栽培面では「小学生に栽培してもらおうと親の関心が高まり、話題性につながる」、販売面では「食べ方の紹介を工夫する必要がある」などの意見が上がった。